Internet Streaming Server

4 ストリーミングサーバソフトウェア

ストリーミングサーバにバンドルされている各種管理ソフトウェア(ユーティリティ)について説明します。ユーティリティには、ストリーミングサーバにインストールするものとネットワーク上の管理コンピュータ(PC)にインストールするものなどがあります。ユーティリティは、ストリーミングサーバの保守性や管理機能を向上します。

次ページに続く

エクスプレス通報サービス(→111ページ) .... 障害発生時に自動的に保守サービス会社へ通報するソフトウェアです。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1(→114ページ) .... ストリーミングサーバに接続したインテリジェントUPS(無停電電源装置)を管理をするソフトウェアです。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J(→118ページ) .... ストリーミングサーバに接続したスマートUPS(無停電電源装置)を管理をするソフトウェアです。

添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、ストリーミングサーバを容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、ストリーミングサーバの機能をより多く引き出すことができます。



EXPRESSBUILDER CD-ROMは、ストリーミングサーバの設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。

* コンソールレスで操作する場合。COM/LANポートを使用可能。



- ビルド・トゥ・オーダーで購入した装置のハードディスクドライブには電源管理をする次のユーティリティがインストールされている場合があります。それぞれのページを参照してセットアップをしてください（これらのユーティリティはEXPRESSBUILDERの中には含まれていません）。
  - ESMPRO/UPSController Ver. 2.1（114ページ参照）
  - PowerChute *plus* Ver. 5.11J/5.2J（118ページ参照）
- ストリーミングサーバのRAID設定を変更するユーティリティ「SETUP」やディスクアレイの設定をするユーティリティ「MegaRAID Configuration Utility」はEXPRESSBUILDERには含まれていません。このユーティリティはストリーミングサーバ内のボード上のチップに搭載されています（5章参照）。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、ストリーミングサーバに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進めるセットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ(またはディスクアレイの論理ドライブ1台のみ)だけを接続してセットアップしてください。

起動メニューについて

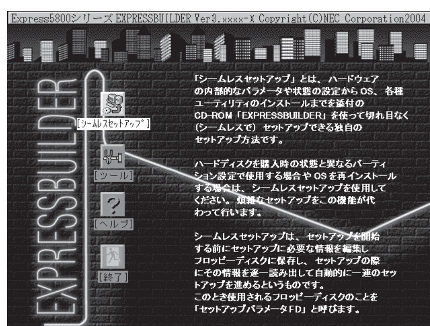
EXPRESSBUILDERには3つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニューや項目が異なります。

- **EXPRESSBUILDER CD-ROMから起動する**

EXPRESSBUILDERをストリーミングサーバのCD-ROMドライブにセットして起動し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起動する方法です。

この方法でストリーミングサーバを起動すると右に示す「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

このメニューにある項目からストリーミングサーバをセットアップします。





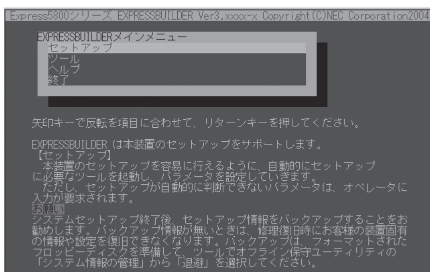
- **ストリーミングサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたストリーミングサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。名前は同じですが、中のモジュールや機能は異なります。**
- **メニューの「シームレスセットアップ」を実行するとあらかじめインストールされているOSを消去します。OSもインストールし直す必要があります。**

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。

- **コンソールレスでEXPRESSBUILDER CD-ROMから起動する**

キーボードやマウス、ディスプレイ装置をストリーミングサーバに接続していない状態でEXPRESSBUILDERをストリーミングサーバのCD-ROMドライブから起動すると、LANかCOM(シリアルポート)で接続している管理用コンピュータ(PC)の画面には、右に示す「EXPRESSBUILDERメインメニュー」が表示されます。

管理PCからこのメニューにある項目を使ってストリーミングサーバを遠隔操作をします。



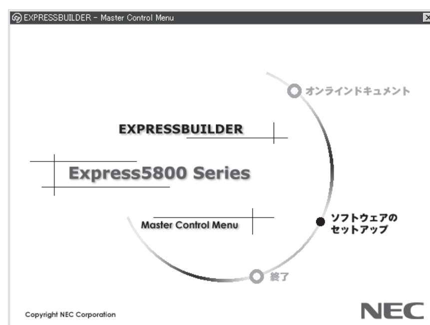


- ストリーミングサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたストリーミングサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。名前は同じですが、中のモジュールや機能は異なります。
- コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、以下の動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。

EXPRESSBUILDERメインメニューについてはこの後の「コンソールレスメニュー」を参照してください。

- **Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする**

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降)が起動した後に、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとメニューが表示されます(右図参照)。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。



マスターコントロールメニューについてはこの後の「マスターコントロールメニュー」を参照してください。

EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

起　動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

1. 周辺装置、ストリーミングサーバの順に電源をONにする。
2. ストリーミングサーバのCD-ROMドライブへEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットする。
3. CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源をOFF/ONしてストリーミングサーバを再起動する。

   CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

ストリーミングサーバソフトウェア

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDERトップメニューが現れます。

シームレスセットアップ

セットアップパラメータFDの情報を参照して、切れ目なく(シームレスに)セットアップを行います。 OSの再インストールを含むセットアップを行う場合、こちらのセットアップ方式を選択してください。

ツール

EXPRESSBUILDERに収められている各種ユーティリティを個別に起動し、オペレータによるセットアップを行います。また、インストール済みOSに影響を与えることなくセットアップを行うことができます。

ヘルプ

EXPRESSBUILDERについて説明します。セットアップを実行する前に一通り目を通しておくことをお勧めします。

終了

EXPRESSBUILDERの終了画面が表示されます。

シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定からOS(Windows 2000)、各種ユーティリティのインストールまでを添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMを使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできるストリーミングサーバ独自のセットアップ方法です。

購入時の状態と異なるハードディスクドライブのパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセットアップを使用すると煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

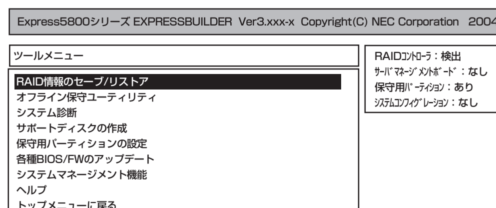
「シームレスセットアップ」を選択すると、OSのインストールを開始します。



- **「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクドライブの内容が失われることがあります。**
- **「セットアップパラメータFD」は指示があるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。**

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDEに収められている各種ユーティリティを個別で起動し、オペレータが手動でセットアップを行います。「シームレスセットアップ」では自動設定できない設定や、より詳細に設定したい場合などに使用してください。



また、システム診断やサポートディスクの作成、保守用パーティションの設定を行う場合も、ツールメニューを使用します。次にツールメニューにある項目について説明します。

- **RAID情報のセーブ/リストア**

  ディスクアレイシステムのコンフィグレーション情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピーディスクから復元することができます。

  - RAID情報のセーブ

    フロッピーディスクにコンフィグレーション情報を保存します。フォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。

  - RAID情報のリストア

    フロッピーディスクからコンフィグレーション情報を復元します。「コンフィグレーション情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

- **オフライン保守ユーティリティ**

  オフライン保守ユーティリティとは、障害発生時に障害原因の解析を行うためのユーティリティです。 詳細は99ページまたはオンラインヘルプを参照してください。

- **システム診断**

  本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。101ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

- **サポートディスクの作成**

  サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピーディスクから起動するための起動用サポートディスクやオペレーティングシステムのインストールの際に必要となるサポートディスクを作成します。 なお、画面に表示されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易です。

  サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

  - Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

    Windows 2000をインストールするときに必要となるサポートディスクを作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

  - ROM-DOS起動ディスク

    ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

− オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティの起動用サポートディスクを作成します。

− システム診断ユーティリティ

システムチェックプログラムの起動用のサポートディスクを作成します。

− システムマネージメント機能

BMC(Base board Management Controller)による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行うプログラムの起動用サポートディスクを作成します。

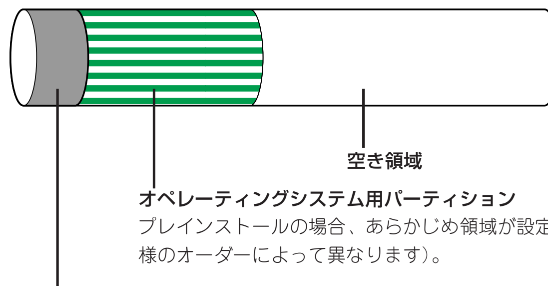
● 保守用パーティションの設定

ここでは、保守用パーティションに対するメンテナンスをすることができます。保守用パーティションが作成されていないときは「保守用パーティションの作成」以外の項目は表示されません。



「保守用パーティションの設定」の各項目を実行している間は、ストリーミングサーバをリセットしたり、電源をOFFにしたりしないでください。

<ストリーミングサーバのシステムディスク構成例>



空き領域

オペレーティングシステム用パーティション
プレインストールの場合、あらかじめ領域が設定されています(容量は、お客様のオーダーによって異なります)。

保守用パーティション(約55MB)
ストリーミングサーバの保守ユーティリティで使用する共通モジュールが格納されています。また、EXPRESSBUILDERでのセットアップ時に作業領域としても利用されます。オペレーティングシステムからは「MAINTE_P」のFATパーティションとして認識されます。



出荷時にオペレーティングシステムがインストールされていない場合は、保守用パーティションは作成されていません。EXPRESSBUILDERを使ってセットアップをすると自動的に保守用パーティションを作成することができます。

− 保守用パーティションの作成

55MB程度の領域を内蔵ハードディスクドライブ上へ確保し、続けて各種ユーティリティのインストールを行います。すでに保守用パーティションが確保されている場合は、各種ユーティリティのインストールを行うことができます。

− 各種ユーティリティのインストール

各種ユーティリティ(システム診断/システムマネージメント機能/オフライン保守ユーティリティ)を、CD-ROMから保守用パーティションへインストールします。インストールされたユーティリティは、オフライン保守ユーティリティをハードディスクドライブから起動した場合に、使用することができます。

－ 各種ユーティリティの更新

各種ユーティリティ（システム診断／オフライン保守ユーティリティ）を、フロッピーディスクから保守用パーティションへコピーします。各種ユーティリティがフロッピーディスクでリリースされたときに実行してください。それ以外では、本項目は使用しないでください。

－ FDISKの起動

ROM-DOSシステムのFDISKコマンドを起動します。パーティションの作成/削除などができます。

● **各種BIOS/FWのアップデート**

「8番街」で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、ストリーミングサーバのBIOS/FW（ファームウェア）をアップデートすることができます。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『8番街』：http://nec8.com/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

● **システムマネージメント機能**

BMC（Baseboard Management Controller）による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

● **ヘルプ**

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

● **トップメニューに戻る**

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

コンソールレスメニュー

EXPRESSBUILDERは、ストリーミングサーバにキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ(管理PC)から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。



- **ストリーミングサーバ以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付されていたストリーミングサーバ以外のExpress5800シリーズで起動しないでください。故障の原因となります。名前は同じですが、中のモジュールや機能は異なります。**
- **コンソールレス時の使用は、本体にキーボードが接続されていないことが条件です。本体にキーボードが接続されていると、EXPRESSBUILDERはコンソールがあると判断し、コンソールレス動作を行いません(管理PCにメニューを表示しません)。**

起動方法

起動方法には管理PCと本体の接続状態により、次の2つの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続(シリアルポート2)された管理PCから実行する

ここの説明にある「MWA」のインストール方法および設定方法については、94ページを参照してください。



- **BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。CD-ROMドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。**
- **LAN接続はLANポート1のみ使用可能です。**
- **ダイレクト接続はシリアルポート2のみ使用可能です。**
- **コンソールレスでストリーミングサーバを遠隔操作するためには、設定情報を格納したフロッピーディスクが必要になります。**
  フォーマット済みのフロッピーディスクを用意しておいてください。

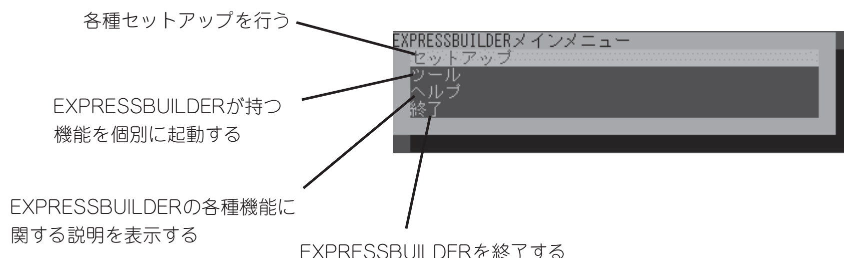


BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

● LAN Controller 1:	[Enabled]
● Serial Port 1:	[Enabled]
Base I/O address:	[3F8]
Interrupt:	[IRQ 4]
● Serial Port 2:	[Enabled]
Base I/O address:	[2F8]
Interrupt:	[IRQ 3]
● Serial Port Address:	[Serial Port 2]
● Baud Rate:	[19.2k]
● Flow Control:	[None]
● Console Type:	[PC ANSI]

メインメニュー

管理PCの画面上に表示されるメインメニューは次のとおりです。



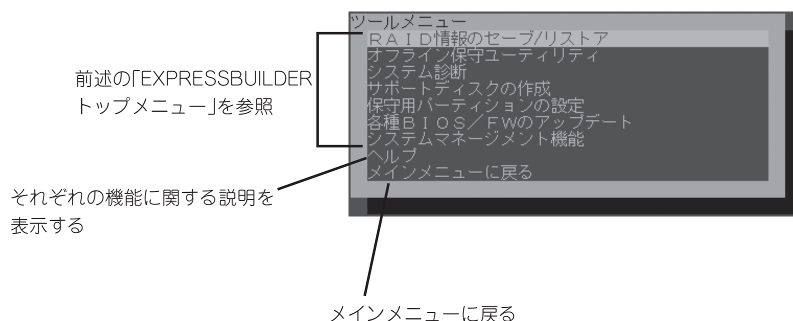
セットアップ

本体のハードウェア構成をチェックして、ディスクアレイコンフィグレーションおよび保守用パーティションの設定を自動的に行います。



ツールメニュー

メインメニューでツールを選択すると以下のメニューが表示されます。
ツールメニューにある項目は、「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」の項目の中からコンソールレスで使用できるもののみがあげられています。それぞれの機能については、前述の「EXPRESSBUILDERトップメニュー」を参照してください。





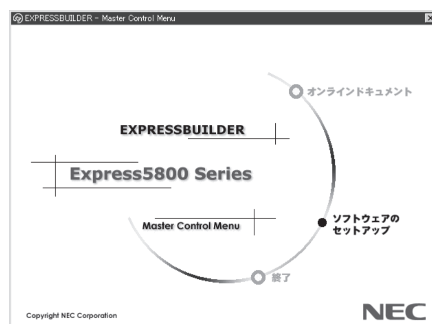
「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツールメニュー」にある機能と比較すると次の点が異なります。

- **「システム診断」の内容や操作方法（詳しくは、101ページを参照してください）**
- **「サポートディスクの作成」で作成できるディスクの種類**

ストリーミングサーバソフトウェア

マスターコントロールメニュー

Windows(Windows 95以降、またはWindows NT 4.0以降)が動作しているコンピュータ上で添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。





システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。
また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、ストリーミングサーバのセットアップで使用する「セットアップパラメータFD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータFD」を作成して、EXPRESSBUILDERからストリーミングサーバをセットアップすることをお勧めします。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows 2000をインストールすることはできます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップの途中で修正・作成することもできます。

セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータFD」を作成します。以下の手順に従ってください。



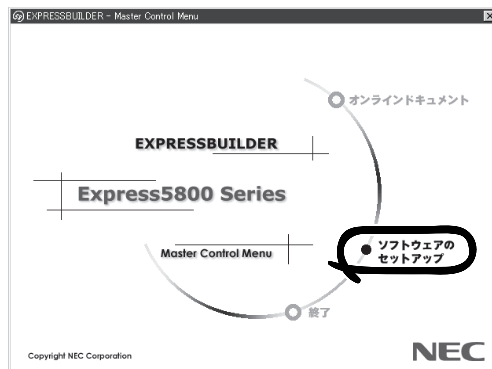
ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

1. OSを起動する。
2. 添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

   マスターコントロールメニューが表示されます。
3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェアのセットアップ]を左クリックする。

   メニューが表示されます。
4. [ExpressPicnic]をクリックする。

   ExpressPicnicウィンドウが表示されます。



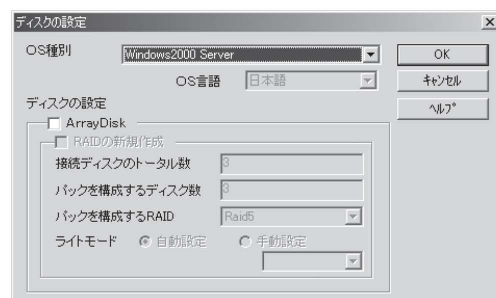
5. ［ファイル］メニューの［情報ファイルの新規作成］をクリックする。

［ディスクの設定］ダイアログボックスが表示されます。



6. 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

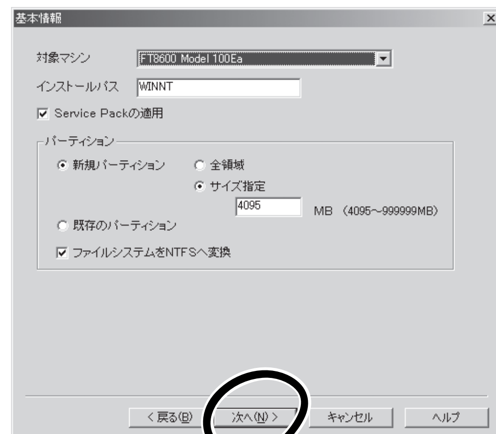
［基本情報］ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。



7. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、［次へ］をクリックする。

> ✔ チェック
>
> ［キャンセル］をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

セットアップ情報の設定が完了すると、［ファイル保存］ダイアログボックスが表示されます。



8. ［セットアップパラメータFD］チェックボックスをオンになっていることを確認し、［ファイル名］ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

9. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、［OK］をクリックする。



「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はWindows 2000をインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してください。



- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル（セットアップパラメータFD）を修正する場合は、ExpressPicnicウィンドウの［情報ファイルの修正］をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

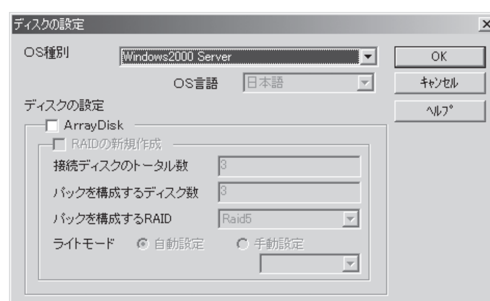
EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。

重要 **追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要があります。**

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる（85ページ参照）。
2. ［ファイル］メニューの［情報ファイルの新規作成］をクリックする。

   ［ディスクの設定］ダイアログボックスが表示されます。
3. 各項目を設定し、［OK］をクリックする。

   ［基本情報］ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックス順に表示されます。

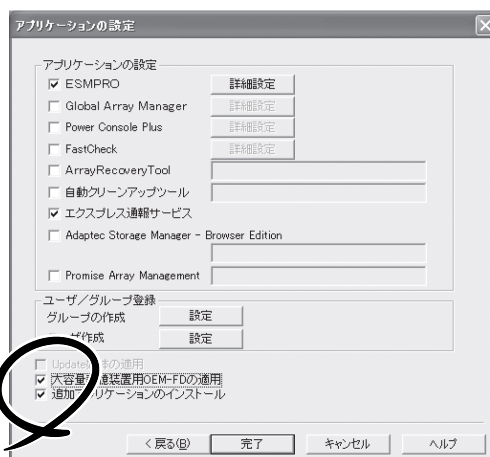


4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、［次へ］をクリックする。



   ［キャンセル］をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. ［アプリケーションの設定］が表示されたら、［追加アプリケーションのインストール］にチェックを入れる。



6. ［ファイル指定］ダイアログボックスが表示されたら、［セットアップパラメータFD］チェックボックスがオンになっていることを確認し、［ファイル名］ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし［OK］をクリックする。

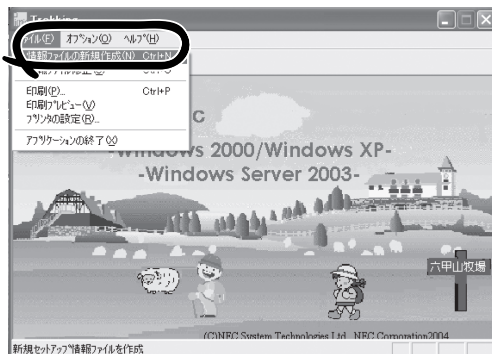
オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、以下の手順に従って「セットアッププパラメータFD」を作成してください。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(85ページ参照)。

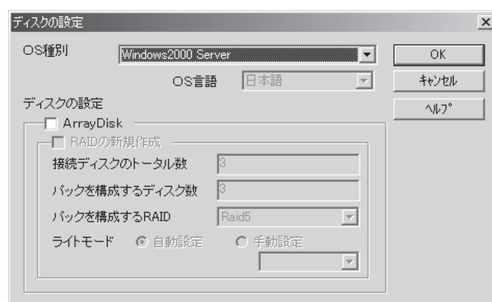
2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新規作成]をクリックする。

   [ディスクの設定]ダイアログボックスが表示されます。



3. 各項目を設定し、[OK]をクリックする。

   [基本情報]ダイアログボックスなど、セットアップ情報を設定するダイアログボックスが順に表示されます。

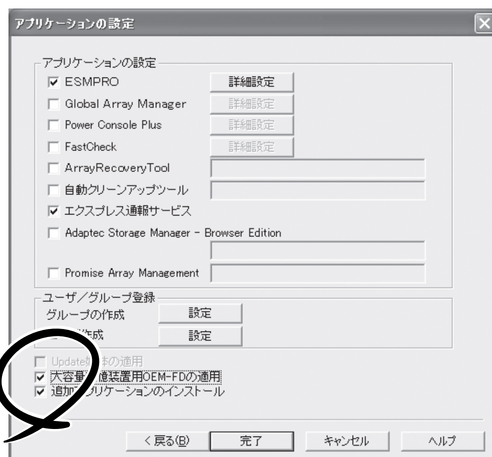


4. メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。



[キャンセル]をクリックすると入力した内容が消えてしまいます。

5. [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用]にチェックを入れる。



6. ［ファイル指定］ダイアログボックスが表示されたら、［セットアップパラメータFD］チェックボックスがオンになっていることを確認し、［ファイル名］ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。

7. 1.44MBでフォーマット済のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、［OK］をクリックする。

稼働機からの情報採取

ISS（InternetStreamingServer）シリーズでは、本機能は対応しておりません。

大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラメータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(85ページ参照)。

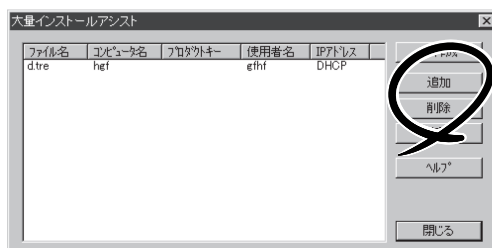
2. [オプション]メニューの[大量インストールのアシスト]をクリックする。



3. [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。

   ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。

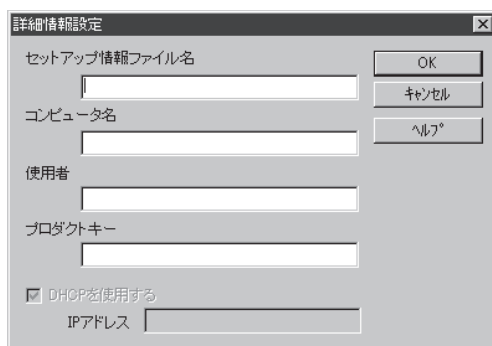
4. [追加]をクリックする。



5. ベースとなるセットアップ情報ファイルから変更するパラメータを設定する。

6. [OK]をクリックする。

   リストに追加した情報が表示されます。



7. ファイル名を選択し、[FD作成]をクリックする。

   選択したファイル名のセットアップパラメータFDを作成します。

ESMPRO

ストリーミングサーバシステムの監視をするユーティリティとしてESMPRO/ServerAgent（Windows版）、ESMPRO/ServerManagerがバンドルされています。

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）はストリーミングサーバへ、ESMPRO/ServerManagerはネットワーク上の管理PCへインストールして利用します。

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）は本装置にインストールするサーバ監視用アプリケーションです。
EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



ESMPRO/ServerAgent（Windows版）の使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のEXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド」を参照してください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgentのインストールは添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMを使用します。ストリーミングサーバ上のOSが起動した後、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブにセットするとAutorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。





- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- Mylexディスクアレイコントローラを監視する場合は、Global Array Managerをインストールする必要があります。EXPRESSBUILDERからESMPRO/ServerAgentのセットアップを起動すると、自動的にGlobal Array Managerのインストーラは起動します。

ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. ストリーミングサーバを再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

   エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、本体にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。
管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメント、またはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のEXPRESSBUILDER CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」を参照してください。

MWA

MWAは、ネットワーク上から管理PC(ESMPRO/ServerManagerが動作しているコンピュータ)を使用して、ストリーミングサーバをリモート管理するためのアプリケーションです。

MWAの機能や運用方法については、EXPRESSBUILDER CD-ROMの以下のパスに格納されている「MWAインストレーションガイド」を参照してください。

CD-ROMドライブ:¥mwa¥doc¥jp¥mwa_fsg.pdf



MWAのインストール方法は、オンラインドキュメントで説明します。「MWAインストレーションガイド」を参照してください。

MWAでリモート管理可能な装置

MWAが管理する対象装置には、BMCまたはRomPilotが搭載されています。本製品には、BMC(IPMI 1.5)が搭載されています。

注意事項

「MWAファーストステップガイド」は、MWAがリモート管理する対象装置全般について、汎用的に説明しています。
MWAから本製品をリモート管理するにあたって、特にご注意いただきたい点を示します。

- LAN接続はLAN ポート1のみ使用可能です。WAN接続、ダイレクト接続は前面のシリアルポート2のみ使用可能です。
- LAN接続によるリモート管理時に「RAID EzAssist」を起動する場合には、BIOSセットアップユーティリティにおいてServer メニューの「Console Redirection」を選択し、「Serial Port Address」を「Disabled」に設定した後に行ってください。

コンソールが接続されていない場合のコンフィグレーション方法

本製品にキーボードなどのコンソールが接続されていない場合、EXPRESSBUILDERのコンソールレス機能を使ってサーバ側のコンフィグレーションを行うことで、MWAのリモートコンソール機能を利用できるようになります。

次の2つの方法があります。

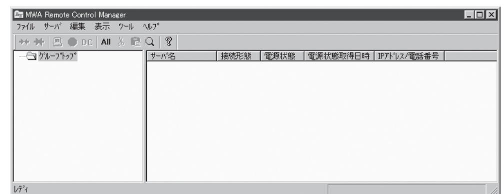
- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続された管理PCから実行する

LAN接続された管理PCから実行する

ローカルエリアネットワーク(LAN)を経由して接続されている管理PCから、以下の手順で実行します。

1. MWAをインストールした管理PCを起動し、スタートメニューから[プログラム]ー[NEC MWA]ー[MWA]の順にクリックする。

   MWAが起動し、初期画面の「Remote Control Manager」が表示されます。



2. フォーマット済みの1.44MBのフロッピーディスクを管理PCのフロッピーディスクドライブにセットする。

3. MWAの[ファイル]メニューから[コンフィグレーション]コマンドを選択して[コンフィグレーション]ダイアログボックスを表示させる。

4. [新規作成]をクリックして[設定モデルの選択]ダイアログボックスを表示させる。

5. [FD書き込みを行う]にチェックし、管理対象装置のモデル名を選択する。

   管理対象装置の種類に応じたコンフィグレーションダイアログボックスが表示されます。モデル名は本体前面に印刷されています。

6. [コンフィグレーション]ダイアログボックスで、管理対象装置の以下の情報を設定/登録する。

   コンピュータ名(サーバ名。管理対象装置を示す任意の名前)
   IPアドレス
   デフォルトゲートウェイ
   サブネットマスク
   1次通報先(管理PCのIPアドレス)

   その後、以下のファイル名でフロッピーディスクに書き込む。

   <コンフィグレーション情報ファイル名>
   CSL_LESS.CFG

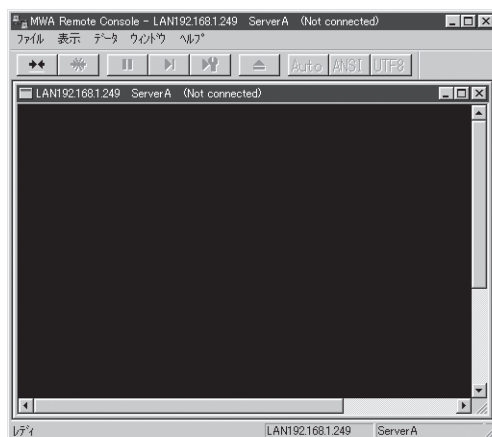
7. サーバ名を右クリックして表示されるショートカットメニューから[プロパティ]コマンドを選択して、[プロパティ]ダイアログボックスを表示させる。

8. 「プロパティ」ダイアログボックスが表示されたら、以下のように設定する。

<[ID]ページ>
接続形態:　LAN

<[アラート通知]ページ>
[標準設定を使用する]のチェックを外して[アクティベート]のリセットにチェックする。

9. サーバ名を右クリックして表示されるショートカットメニューから[リモートコンソールの起動]コマンドを選択して[MWA Remote Console]を開く。



10. サーバウィンドウ上で右クリックして表示されるショートカットメニューから[リモートコンソールの動作指定]コマンドを選択して[リモートコンソールの動作指定]ダイアログボックスを表示させ、[MWAモードで実行]を選択する。

11. 管理対象装置のCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットし、フロッピーディスクドライブに設定情報(CSL_LESS.CFG)を格納したフロッピーディスクをセットする。

12. 本体の電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

1回の再起動後、管理PCの画面上にメインメニューが表示され、ハードウェアのセットアップ、各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。



フロッピーディスク内の設定情報(CSL_LESS.CFG)がすでに設定されている場合は、再起動せずにメインメニューが表示されます。

13. 管理PCの画面上にメインメニューが表示されたら、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出す。

14. MWA Remote Control Manager上でサーバ名を右クリックして表示されるポップアップメニューから[プロパティ]コマンドを選択して[プロパティ]ダイアログボックスを表示させ、[ID]ページで[接続チェック]をクリックして、対象装置との接続を確認する。

15. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROM以外のツールを使用する場合は、EXPRESSBUILDERを終了させ、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをCD-ROMドライブから取り出した後、MWAから[電源制御]コマンドで電源をOFF/ONする。

MWA Remote Control Manager上で、サーバ名を右クリックして表示されるポップアップメニューから[電源制御]コマンドを選択することでサーバの電源を操作できます。



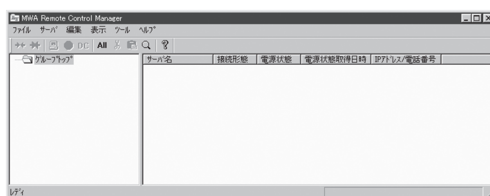
リモートコンソール接続での作業を終了したら、[プロパティ]ダイアログボックスの[アクティベート]の「リセット」のチェックを外してください。

ダイレクト接続(シリアルポート2)された管理PCから実行する

本体のシリアルポート2にダイレクト接続された管理PCから、以下の手順で実行します。

1. MWAをインストールした管理PCを起動し、スタートメニューから[プログラム]ー[NEC MWA]ー[MWA]の順にクリックする。

   MWAが起動し、初期画面の「Remote Control Manager」が表示されます。



2. MWAの[ファイル]メニューから[環境設定]ー[ダイレクト接続設定]の順に選択し、「ダイレクト接続設定」ダイアログボックスを表示させ、以下のように設定する。

   <ダイレクト接続設定>
   ポート: 接続する管理PC側のCOMポート
   ボーレート: 19200
   フロー制御: RTS/CTS

3. MWAの[ファイル]メニューから[コンフィグレーション]コマンドを選択して[コンフィグレーション]ダイアログボックスを表示させる。

4. [新規作成]をクリックして[設定モデルの選択]ダイアログボックスを表示させる。

5. [FD書き込みを行う]にチェックし、管理対象装置のモデル名を選択する。

   管理対象装置の種類に応じたコンフィグレーションダイアログボックスが表示されます。モデル名は本体前面に印刷されています。

6. [コンフィグレーション]ダイアログボックスで、管理対象装置のコンピュータ名などのコンフィグレーション情報を設定/登録後、以下のファイル名でフロッピーディスクに書き込む。

   <コンフィグレーション情報ファイル名>
   CSL_LESS.CFG

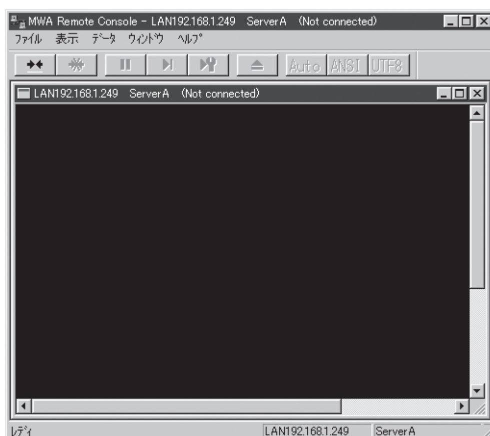
7. サーバ名を右クリックして表示されるショートカットメニューから[プロパティ]コマンドを選択して、[プロパティ]ダイアログボックスを表示させる。

8. [プロパティ]ダイアログボックスが表示されたら、以下のように設定する。

   <[ID]ページ>
   接続形態: COM
   COM: ダイレクト(クロスケーブル)

9. サーバ名を右クリックして表示されるショートカットメニューから[リモートコンソールの起動]コマンドを選択して[MWA Remote Console]を開く。

   [MWA Remote Console]上にサーバウィンドウが開いていることを確認し、[接続]をクリックする。



10. 管理対象装置のシリアルポート2に管理PCをダイレクト接続する。

11. 本体のCD-ROMドライブにEXPRESSBUILDER CD-ROMをセットし、フロッピーディスクドライブに設定情報(CSL_LESS.CFG)を格納したフロッピーディスクをセットする。

12. 本体の電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

    1回の再起動後、管理PCの画面上にメインメニューが表示され、ハードウェアのセットアップ、各種ユーティリティを管理PCから実行できるようになります。

    フロッピーディスク内の設定情報(CSL_LESS.CFG)が既に設定されている場合は、再起動せずにメインメニューが表示されます。

13. EXPRESSBUILDER CD-ROM以外のツールを使用する場合は、EXPRESSBUILDERを終了させ、EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブから取り出した後、本体の電源をOFF/ONしてシステムを再起動する。

    リモートコンソール接続での作業を終了したら、[MWA Remote Console]ウィンドウの[切断]をクリックしてください。

オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティは、ストリーミングサーバの予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害がストリーミングサーバに起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。



- **オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン保守ユーティリティを起動すると、メニューにヘルプ(機能や操作方法を示す説明)がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。**
- **オフライン保守ユーティリティが起動すると、クライアントからストリーミングサーバへアクセスできなくなります。**

オフライン保守ユーティリティの起動方法

オフライン保守ユーティリティは次の方法で起動することができます。
オフライン保守ユーティリティは手動で起動することもできますが、障害発生時に自動起動させることもできます。

- **EXPRESSBUILDERからの起動**

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」から「ツール」−「オフライン保守ユーティリティ」の順に選択すると、CD-ROMよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

- **フロッピーディスクからの起動**

「EXPRESSBUILDERトップメニュー」の「ツール」−「サポートディスクの作成」で作成した「オフライン保守ユーティリティ起動FD」をセットして起動すると、オフライン保守ユーティリティが起動します。

- **手動起動(F4キー)**

オフライン保守ユーティリティをインストール後、ストリーミングサーバの起動時の画面で<F4>キーを押すと、ディスクよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

- **自動起動(OS運用中の障害)**

OS動作中に致命的な障害が発生し、シャットダウン後、再起動するとオフライン保守ユーティリティが自動的に起動します(あらかじめ、ESMPRO/ServerAgentで、「障害発生時、オフライン保守ユーティリティを起動する」に設定をしてください)。

- **自動起動(OS起動失敗)**

OS起動監視機能が有効な場合、OSの起動を3回失敗すると、オフライン保守ユーティリティが自動的に起動します。

オフライン保守ユーティリティの機能

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます(起動方法により、実行できる機能は異なります)。

- **IPMI情報の表示**

  IPMI(Intelligent Platform Management Interface)におけるシステムイベントログ(SEL)、センサ装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)の表示やバックアップをします。

  本機能により、本製品で起こった障害や各種イベントを調査し、交換部品を特定することができます。

- **BIOSセットアップ情報の表示**

  BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

- **システム情報の表示**

  プロセッサ(CPU)やBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

- **システム情報の管理**

  お客様の装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしておかないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップの方法については、3章で説明しています。なお、リストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

- **各種ユーティリティの起動**

  EXPRESSBUILDERから保守用パーティションにインストールされた以下のユーティリティを起動することができます。

  ー　システムマネージメント機能
  ー　システム診断
  ー　保守用パーティションの更新

- **筐体識別**

  本装置のランプ、ブザー等で、本装置を識別できるようにします。
  ラックに複数台の装置が設置された局面で、装置を識別する時などに便利です。

システム診断

システム診断はストリーミングサーバに対して各種テストを行います。
「EXPRESSBUILDER」の「ツール」メニューから「システム診断」を実行してストリーミングサーバを診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- ストリーミングサーバに取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクドライブのチェック



システム診断を行う時は、必ず本体に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。



ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

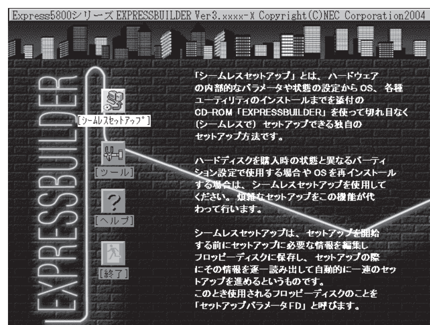
システム診断には、ストリーミングサーバ自身のコンソール（キーボード）を使用する方法と、シリアルポート経由で管理PCのコンソールを使用する方法（コンソールレス）があります。それぞれの起動方法は次のとおりです。

1. シャットダウン処理を行った後、ストリーミングサーバの電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
2. 本体に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
3. 電源コードをコンセントに接続し、ストリーミングサーバの電源をONにする。

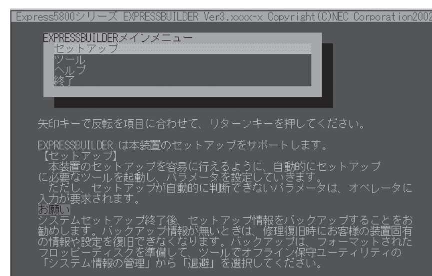
4. EXPRESSBUILDER CD-ROMを使ってストリーミングサーバを起動する。

ストリーミングサーバのコンソールを使用して起動する場合と、コンソールレスで起動する場合で手順が異なります。この章の「EXPRESSBUILDER」を参照して正しく起動してください。

EXPRESSBUILDERから起動すると画面にメニューが表示されます。ストリーミングサーバのコンソールを使用して起動した場合は、ストリーミングサーバに接続しているディスプレイ装置に「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。コンソールレスで起動した場合は、管理PCのディスプレイに「EXPRESSBUILDERメインメニュー」が表示されます。



EXPRESSBUILDERトップメニュー

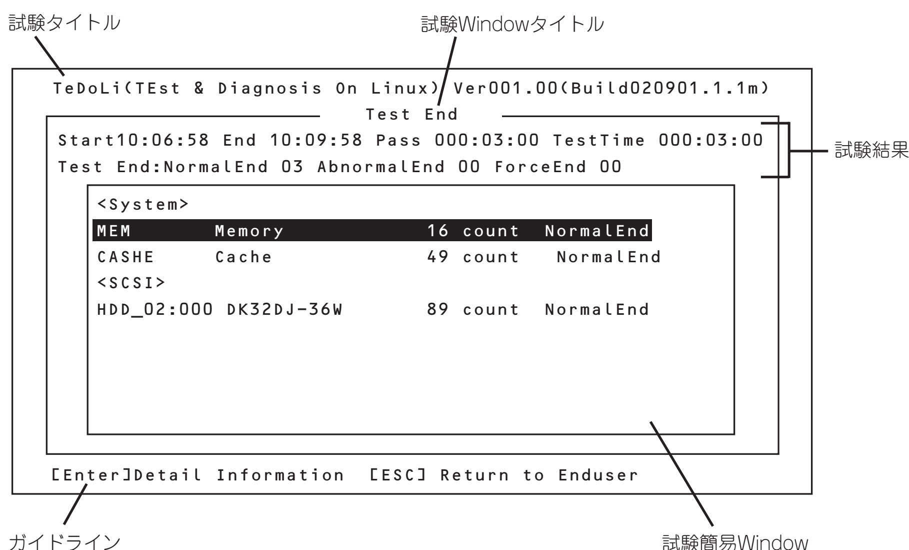


EXPRESSBUILDERメインメニュー

5. [ツール]を選択する。

6. 「ツールメニュー」の[システム診断]を選択する。

システム診断を開始します。約3分で診断は終了します。
診断を終了するとディスプレイ装置の試験WindowタイトルがTest Endとなります。

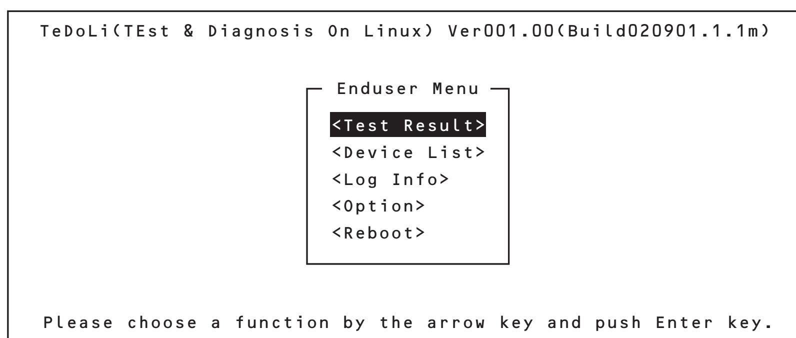


試験タイトル：	診断ツールの名称及びVersion情報を表示します。
試験Windowタイトル：	診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。
試験結果：	診断開始・終了・経過時間及び終了時の状態を表示します。
ガイドライン：	Windowを操作するキーの説明をします。
試験簡易Window：	診断を実行した各試験の結果を表示します。 カーソル行でEnterキーを押下すると試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は、試験簡易Windowの該当する試験結果がAbnormal Endとなり赤く反転表示されます。
エラーを検出した試験にカーソルを移動してEnterキーを押下し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

7. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<ESC>キーを押す。

以下のメインメニューを表示します。



<Test Result>	前述の診断終了時の画面を表示します。
<Device List>	接続されているデバイス一覧情報を表示します。
<Log Info>	試験ログやエラーメッセージを表示します。 エラーメッセージをフロッピーディスクへ記録することができます。 フロッピーディスクへ記録する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスク媒体をフロッピーディスクドライブに挿入し、<Save[F]>を選択してください。
<Option>	ログの出力先の変更を行います。
<Reboot>	ストリーミングサーバを再起動します。

8. 上記メインメニューで<Reboot>を選択する。

ストリーミングサーバが再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。

9. EXPRESSBUILDERを終了し、CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。

10. ストリーミングサーバの電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。

11. 手順2で取り外したLANケーブルを接続し直す。

12. 電源コードをコンセントに接続する。

以上でシステム診断は終了です。

Power Console Plus

Power Console PlusはLSI Logic製ディスクアレイコントローラシステムを構築しているWindows2000サーバの監視・管理用のアプリケーションです。

Power Console Plus(サーバ)

Power Console Plus(サーバ)はLSI Logic製ディスクアレイコントローラシステムを構築しているサーバにインストールし、使用される監視・管理用のアプリケーションです。
Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にPower Console Plusがあらかじめインストールされている場合があります。このままでも使用できますが、後述の「Power Console Plus(サーバ)の環境設定」に記載の内容の設定を行うことをお勧めします。また、リモートからの監視を行う場合は別途、Power Console Plus(管理PC)のインストールを行ってください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

Power Console Plusは添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMに収められているWindows 2000自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここで「Power Console Plus」を選択してください。なお、シームレスセットアップ後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視を行う場合は別途、Power Console Plus(管理PC)のインストールを行ってください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は以下の説明を参考にしてインストールをしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER CD-ROM内にあるオンラインドキュメント「Power Console PlusTMユーザーズガイド」を参照してください。

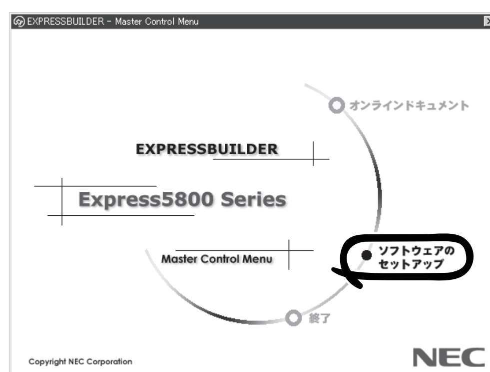
Power Console Plus(サーバ)をインストールする前に

Power Console Plus(サーバ)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

- LSI Logic製のディスクアレイコントローラがシステムに取り付けられていること
- LSI Logic製のディスクアレイコントローラのドライバが組み込まれていること
- WindowsのSNMPサービスが組み込まれていること
- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Internet Explorer 4.01 サービスパック2以降がインストールされていること

Power Console Plus(サーバ)のインストール手順

Power Console Plus(サーバ)のインストールは添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMを使用します。EXPRESSBUILDER CD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]-[ESMPRO]-[関連ユーティリティメニュー]-[Power Console Plus]の順にクリックします。



ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「サーバ」または「サーバ+管理サーバ」をチェックし、[次へ]ボタンをクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。なお、インストール後は後述の環境設定をしてください。また、リモートからの監視を行う場合は別途、Power Console Plus(管理PC)のインストールを行ってください。



上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(サーバ)の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

  ネットワーク経由で制御する場合はすべてのサーバ/管理PCおよび管理サーバのIPアドレスとホスト名を登録してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **REGSERV.DATの設定**

  ネットワーク経由で制御する場合は管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。サーバ内でのみ制御する場合はこの作業は不要です。

- **ESMPRO/ServerManagerとのメニュー連携の設定**

  システムにESMPRO/ServerManagerがインストールされている場合は、ESPRESSBUILDERの「ESMPRO¥JP¥I386¥PCON¥PCPESMSM.EXE」を実行してください。

- **パスワードファイルのアクセス権設定**

  「c:¥Winnt¥System32¥drivers¥etc¥raidpass.val」(c:¥Winntは、Windowsの一般的なインストール先フォルダです)をセキュリティ保持の観点からNTFSファイルアクセス権を管理者(Administrator)権限などに変更してください。

Power Console Plus(管理PC)

Power Console Plusをネットワーク経由でサーバを管理する場合にインストールします。Power Console Plusの動作環境や操作手順については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズガイド」を参照してください。

以下の説明を参考にしてPower Console Plus(管理PC)を管理PCにインストールしてください。インストールに関する詳しい手順と操作方法についてはEXPRESSBUILDER CD-ROM内にあるオンラインドキュメント「Power Console Plus™ユーザーズガイド」を参照ください。

Power Console Plus(管理PC)をインストールする前に

Power Console Plus(管理PC)をインストールするときは、次に示す準備をしておく必要があります。

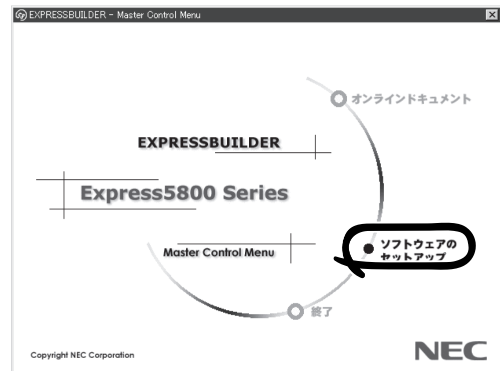
- WindowsのTCP/IPの設定が終了していること
- システムのアップデートが終了していること
- Windows Installerが組み込まれていること
- Administratorsグループでログオンされていること
- Windows NT 4.0の場合、サービスパック5以降が適用されていること
- Internet Explorer 4.01 サービスパック2以降がインストールされていること



- Microsoft Windows NT Version 4.0でのWindows Installerの組み込みは、「EXPRESSBUILDER」の「¥ESMPRO¥JP¥I386¥PCON¥AMI」にあるファイル「INSTMSIW.EXE」を実行して組み込みます。Microsoft Windows 95/98/Meの場合、同様に「INSTMSIA.EXE」を実行し組み込みます。なお、Windows Server 2003/Windows 2000はこの操作は不要です。
- Internet Explorer4.01 サービスパック2以降はWindows NT 4.0のサービスパック5または6a媒体からインストールできます。

Power Console Plus(管理PC)のインストール手順

Power Console Plus(管理PC)のインストールは添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMを使用します。Windows Server 2003/Windows 2000、Windows NT 4.0、およびWindows 95/98/Meでは EXPRESSBUILDER CD-ROMをドライブにセット後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]ー[ESMPRO]ー [関連ユーティリティメニュー]ー[Power Console Plus]の順にクリックします。



ここで表示されるセットアップオプションの選択でインストールするコンポーネントとして「管理PC」または「管理PC+管理サーバ」をチェックし、[次へ]ボタンをクリックしてください。以降はダイアログボックスのメッセージに従ってインストールしてください。



上記記述の管理サーバはネットワークで接続されたすべてのサーバおよび管理PCを管理するコンピュータとしてネットワーク内に1つ定義します。

Power Console Plus(管理PC)の環境設定

- **HOSTSファイルの設定**

  管理サーバとすべてのサーバ/管理PCのIPアドレスとホスト名を登録してください。

- **REGSERV.DATの設定**

  管理サーバのホスト名をすでにある「localhost」の設定と置換してください。

- **ESMPRO/ServerManagerとのメニュー連携の設定**

  システムにESMPRO/ServerManagerがインストールされている場合は、ESPRESSBUILDERの「ESMPRO¥JP¥I386¥PCON¥PCPESMSM.EXE」を実行してください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、ストリーミングサーバに搭載したテープドライブならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。
ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの失敗などを防止するために、テープドライブを搭載している装置にはこのユーティリティをインストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。
サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名: TapeAlertChecker
- スタートアップの種類: 自動
- ログオン: システムアカウント
[デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、装置にインストールされていません。
次の「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳しくはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。
オンラインドキュメントは、添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMの次のディレクトリにPDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥SG_TP3.pdf

動作環境

ハードウェア

- インストールする装置　本装置およびExpress5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ　500KB以上
- ハードディスクドライブの空き容量　2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
  - Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(サービスパック5以降)
  - Microsoft® Windows® 2000 日本語版

- アプリケーション
  - ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
  - ARCserve J6.5 for Windows NT(全エディション、Patch07が必要)
  - ARCserveIT J6.61 for Windows NT(全エディション)
  - ARCserve 2000 (SP2)(全エディション)
  - BackupExec for Windows NT Ver.7.3
  - BackupExec for Windows NT Ver.8.5
  - NTBackup(Windows NT標準装備のバックアップツール)
  - #BKUP

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2002年3月現在)。

● 内蔵/外付 AIT	N8151-28/-34、/-41、/-44、 N8551-19/-28/-34、N8560-16
● 内蔵/外付 AIT集合型	N8151-29、N8551-20/-29/-36、N8560-17
● 内蔵/外付 DAT(DDS3)	N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、 N8560-12/-12AC
● 内蔵/外付 DAT集合型(DDS3)	N8551-13/-13AC、N8560-13/-13AC
● 内蔵TRAVAN	N8551-21
● 外付TRAVAN集合型	N8560-19
● 内蔵/外付 DAT(DDS4)	N8151-26/-43、N8551-26、N8560-22
● 内蔵/外付 DAT集合型(DDS4)	N8151-27、N8551-27、N8560-23
● 内蔵SLOT	N8151-38
● 内蔵LTO	N8151-37/-40
● 外付LTO	N8160-39

対象ドライブとバックアップソフトの対応につきましては弊社のWeb情報ページにある8番街(http://nec8.com/)の「サポート情報」ー「商品情報・消耗品」ー「Express 5800テクニカルガイド」ー「Express5800/100シリーズテクニカルガイド」にあります。バックアップ装置＜バックアップ装置対応ソフトウェア①WindowsNT/2000＞を確認してください。

インストール手順

添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMの次のディレクトリにある「Setup.exe」をエクスプローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで説明しています。
インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。前ページの「カスタムインストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。
監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C:¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

プリインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]ボタンをクリックする。

   アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。

   [エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。

   エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ　18.0MB以上
- ハードディスクドライブの空き容量　30.0MB以上
- モデム
  ダイヤルアップ経由の通報を使用する場合、モデムが必要です。ダイヤルアップ経由エクスプレス通報で使用するモデムはNECフィールディングにご相談ください。
- メールサーバ
  電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- 添付のEXPRESSBUILDER CD-ROM内のESMPRO/ServerAgent
- 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
- マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。

  ESMPRO/ServerManager* ＋ ESMPRO/AlertManager Ver3.4以降

  * 被監視サーバのESMPRO/ServerAgentのバージョン以上を使用してください。

  （例） 被監視サーバがESMPRO/ServerAgent Ver3.8の場合、ESMPRO/ServerManagerはVer3.8以降を使用する。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

  本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

  契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。
また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

ESMPRO/UPSController Ver.2.1

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるESMPRO/UPSController Ver.2.1について説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

プリインストールモデルでのセットアップ

ストリーミングサーバのモデルの中には出荷時に「ESMPRO/UPSController」がインストール済みの場合がありますが、設定値はデフォルト値のままになっている場合があります。ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

ESMPRO/UPSControllerサービス(SPOC-I Service)の起動

[サービスコントロールマネージャ]を開き、[SPOC-I Service]を開始してください。
すでに、[SPOC-I Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

SPOC-I Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示すの処理を行う必要はありません。

■ 確認1　イベントビューアによる確認

Windows 2000の「イベントビューア」でESMPRO/UPSControllerが正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「SPOC-I Service」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

   [正常]　UPS通信開始
   [異常]　UPS通信エラー(無応答)
   このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

■ 確認2　ESMPRO/UPSControllerのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］ー［ESMPRO_UPSController］ー［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］を起動する。

   起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. ［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］のメイン画面（チャート）でUPSの情報が表示されていることを確認する。

   ［正常］　UPS情報の「商用電源の値（V）」、「商用最大電圧の値（V）」、「商用最小電圧の値（V）」、「負荷容量の値（%）」等が表示される。

   ［異常］　UPS情報の「商用電源の値（V）」、「商用最大電圧の値（V）」、「商用最小電圧の値（V）」、「負荷容量の値（%）」等が表示されない。
   この後の「設定変更」を参照してESMPRO/UPSControllerの設定を変更してください。

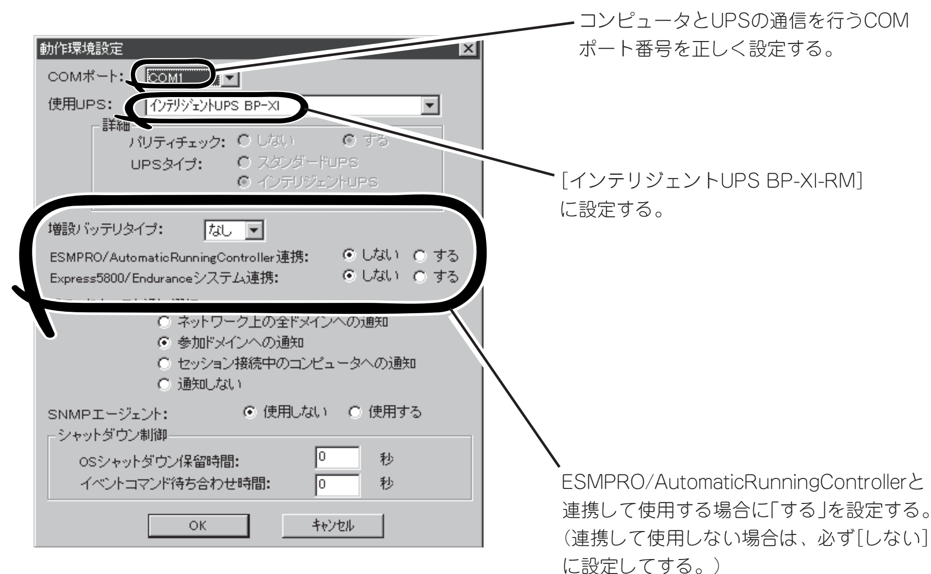
設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］ー［ESMPRO_UPSController］ー［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］を起動する。

   起動方法の詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

2. ［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］のメニューバーより、［設定］ - ［動作環境の設定］を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。



3. 正しく設定した後、［UPSController ﾏﾈｰｼﾞｬ］のメニューバーより、［ファイル］ー［上書き保存］を選択し、設定を保存する。

4. ［コントロールパネル］の［サービス］を開き、［SPOC-I Service］を再起動する。

5. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

ESMPRO/UPSController Ver.2.1を新規にインストールする手順を説明します。

ESMPRO/UPSControllerのアンインストール

現在コンピュータにインストールされているESMPRO/UPSControllerをアンインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのアンインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってアンインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのアンインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。
アンインストール後は、必ずコンピュータを再起動してください。

インストール

ESMPRO/UPSControllerのインストールは、「ExpressServerStartup」のCD-ROMと「ESMPRO/UPSController Ver.2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)を使ってインストールしてください。
ESMPRO/UPSControllerのインストールについての詳細は、別冊のESMPRO/UPSControllerの「セットアップカード」を参照してください。

アップデートインストール

アップデートは次の手順に従ってください。

1. Administratorsローカルグループに所属するユーザーでログオンする。
2. 安全のために、必要最小限のアプリケーション(Serverサービスなど)を除くアプリケーションを終了する。
3. 「スタートメニュー」—「設定」—「コントロールパネル」—「サービス」で次のサービスを停止する。
   - SPOC-I Service
   - ESMPRO/ARC Service
   - SNMP Service
4. 「ExpressServerStartup」のCD-ROMをCD-ROMドライブに、「ESMPRO/UPSController Ver2.1(UL1047-401)」のKey-FD(キーディスク)をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. 「ExpressServerStartup」CD-ROMの中にある「SETUP.EXE」を起動する。

   ESMPRO/UPSControllerのアップデートが開始されます。
6. アップデート完了後、システムを再起動する。

7. 再起動後、ESMPRO/UPSControllerマネージャを起動し、ESMPRO/UPSControllerのバージョンを確認する。

```
ESMPRO/UPSController Version 2.1
```

以上でアップデートは終了です。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jについて説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフトウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

プリインストールモデルでのセットアップ

ストリーミングサーバのモデルの中には出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール済みの場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態でインストールされています。
ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute *plus*サービス(UPS-APC PowerChute *plus* Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始してください。すでに[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままでかまいません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を確認します。
動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありません。

■ 確認1　イベントビューアによる確認

Windows 2000の「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

1. [イベントビューア]を起動する。
2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。

   [正常]　UPSとの通信が確立しました。
   [異常]　UPSとの通信が確立できません。
   このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

■ 確認2　PowerChute *plus*のGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、次の手順でUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］－［PowerChutePLUS］－［PowerChutePLUS］を起動する。

   起動方法の詳細はPowerChute *plus*の「インストールガイド」を参照してください。

2. ［PowerChutePLUS］のメイン画面（チャート）でUPSの情報が表示されていることを確認する。

   ［正常］　データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが表示される。

   ［異常］　UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などがグレーアウトで表示されている。
   この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

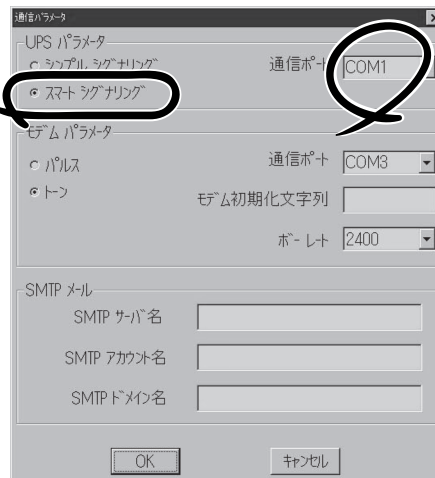
設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定を変更してください。

1. ［スタート］メニューの［プログラム］－［PowerChutePLUS］－［PowerChutePLUS］を起動する。

   起動方法の詳細は、PowerChute *plus*の「オンラインヘルプ」、またはPowerChute *plus*に添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。

2. ［PowerChutePLUS］のメニューバーより、［構成］－［通信パラメータ］を選択し、下記の設定画面を表示し、各設定内容を確認する。



通信シグナルが［スマートシグナリング］であることを確認する。

コンピュータとUPSの通信を行うCOMポート番号を正しく設定する。

3. 正しく設定した後、［OK］ボタンをクリックし、「PowerChutePLUS」のメニューバーより、［システム］－［別のサーバを監視］を選択し、再度監視するサーバを選択する。

4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute *plus*の新規インストール(再インストール)については、PowerChute *plus*に添付の「インストールガイド」を参照してください。